

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
◇自校のアンケート結果から、「授業中、自分が思っていることや感じていることを友達に伝えることが前よりもできていると思う」児童の割合が8割を超えている。 ◇端末を活用して、児童自らアプリケーションを選択して学習できていると実感している割合が3年連続で増加している。	◇授業や活動に意欲的に参加したり、前向きに交流したりする様子は見られているが、発表したり相談したりすることがうまくできない理由として「自信がないから」が6割、「分からないから」が4割という現状（複数回答）がある。 ◇学校評価の結果より、学年が上がるにつれて「授業に進んで参加し、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしている」児童の割合は低下している。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇共通指標アンケートで、「分からないことがあったときに友達や先生に聞くようにしている」「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」は8割を超えており、協働しながら学習に向かおうとしていることが分かるが、「自分が必要とされていると感じる」割合は低い傾向にあり、前年度からの変化も少ない。 ◇教職員の回答に比べて、児童の回答の方が「学習したことを理解することができている」という肯定的な割合が高いことは、協働しながら学習に取り組む場を設定していることが寄与していると考えられ、引き続き友達とともに学ぶ場や価値付けをしていくことが重要と捉える。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

他者の思いをつないで、話す力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1)研究の重点「他者の思いをつないで、話す子」の実現のために ・教職員が互いの授業について交流する機会を設定する。 ・思いをもつことが難しい子も、自分の考えをもちながら学び進めることができるようにするための関わりや、課題解決に向けた見通しを共有する。 (2)一人一人の「確かな学び」の実現のために ・一人一人の理解度やつまづきを日常から事前に想定する。 ・見方・考え方を明らかにする手立てや価値付けをしていく。	学校経営方針で掲げる「あったか札幌北」を目指して ①NSD(運動会)や音楽発表会などの学校行事における相互承認の場を設定 ②自治的な活動の活性化を目指した、委員会における常時活動の充実 ③幼稚園や保育園、地域の人材を活用し、協働して活動を進める機会を創出した生活科・総合的な学習 ④自治的な活動の土台となる、話す機会を保障した「サイコロトーク」の取組
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
◇主に(1)や③について、複数のツールの中から適切なものを児童自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設ける。 ◇主に②について、Google formで各自の意見を集約し、可視化するなど、一人一人の意見や考えが反映するシステムを活用することで、様々な子どもの思いを取り入れながら活動に取り組むことができるように支援する。		

<本プログラムの実行に向けて>

本年度 ◇本プログラム共有 ・ホームページ掲載 ・職員会議 ・提案授業後説明会（5月20日）	【一人一人の教職員】 ◇日常の授業改善 ◇学年経営方針に基づく学級活動の推進 ◇各自の研修…札幌研、年次研修等	【学校全体】 ◇授業協力者との授業づくりと全校研（全3回）の実施 ◇授業交流会 ※パートナー校連携 ◇教員の自主学習（校内授業公開）	次年度へ ◇学校評価 ◇育成プログラムの見直し ◇成果・課題の整理、共有 ◇校内研究全体会（3月9日）
---	---	--	--